The World Deaf Rugby 7's
Australia 2018

報告書

2018 年 6 月

特定非営利活動法人日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟

ごあいさつ

今回、*World Deaf Rugby 7's Australia 2018*という約16年ぶりの聴覚障がい者ラグビー（以下、「デフラグビー」という）での世界大会開催に際し、三機工業株式会社をはじめ、企業や個人から多大なる協賛を頂きまして、そして（財）日本ラグビーフットボール協会などのご協力をいただき、世界大会に出場し、対戦できましたことを、心より御礼申し上げます。これもひとえに、ご尽力いただきました皆様のご支援の賜物と感謝しております。

デフラグビーは、パラリンピックやデフリンピックに種目がなく、国際大会や国際試合等には国際組織がなく、個人で企画することから始めるので、中止のやむなきに至ったことが多くあり、当初は本当に実施できるか不安が大きかった。しかし、2011年に来日し、対戦したデフラグビーオーストラリア選抜メンバーをはじめ、各国の「デフラグビーファミリー」の想い、きづなの強さゆえ、無事に開催への運びになりました。

各国のきづなに感謝しております。

日本代表・クワイエット・ジャパンは、力及ばず優勝を飾ることはできませんでしたが、圧倒的な体格差にもひるまず、身を挺したタックルで海外の猛攻に対峙するなど、一歩も引かずに戦い抜き、4位という成績を残しました。

障がいのあるなしに関わらず、ラグビーという競技が人の心を捕らえて離さない、魅力に満ちあふれたものであることを、日本から声援を送って下さったラグビーファンにお伝えすることができ、皆様の心に何かを刻めたのではないかと思っております。

世界大会という貴重な機会を得られたことで、各国のレベルや技術等が明確になり、フィットネスのさらなる強化、組織プレーの見直しなど、これからの日本チームとしての目標を鮮明にすることができました。また、海を越え、世界から集まったデフラガーマンたちとの友好を深め、今後のさらなる交流を誓い合えたことも、大きな財産です。

障がいの有無を超えて、日本そして世界で「ラグビーファミリー」が増え、この競技が持つ素晴らしさを多くの人に伝えていただけたのではないかと思っております。

最後に、皆様から頂戴いたしましたご協賛・ご支援を重ねて、心より感謝し、ここに今回の世界大会の報告をさせていただきます。重ね重ね、ありがとうございました。

特定非営利活動法人
日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟
理事長　日野　敦博

World Deaf Rugby 7's Australia 2018 遠征会計

収入

科目	金額（円）
協賛金	2,270,484
三機工業株式会社様	2,160,000
助成金 ※仮決定につき、確定しておりません	2,884,000
負担金	468,771
小計	**7,783,255**

収入合計 **7,783,255**

支出

科目	金額（円）
諸謝金（監督・トレーナー・手話通訳者・コーチ・歩合制）	560,000
空港までの交通費	250,154
渡航費	2,151,040
滞在費	1,444,800
貸切バス代	390,200
移動費（国際会議・閉会式へのタクシー代）	19,484
大会選手登録費（振込手数料込）	150,904
ETA申請費	24,000
海外スポーツ保険	155,390
試合用ホームジャージ　フレア合同会社様からのご協賛	-
試合用ホームソックス　フットボールマーク様からのご協賛	-
試合用アウェージャージ	127,400
試合用アウェーソックス　フットボールマーク様からのご協賛	-
遠征用ポロシャツ　フレア合同会社様からのご協賛	-
遠征用バッグ　（チームジャージ一式入れ）	22,680
チーム着（ウインドブレーカー、デイパック、ダフテックジャケット）	766,195
練習着	300,996
スポンサーボード製作	115,488
チーム食　米：株式会社東北食糧様よりご協賛	-
チーム食　味噌：marusan様よりご協賛	-
チーム食　日本で購入し、持参したもの	10,845
チーム食　現地で購入したもの	58,806
チーム食　外食	256,199
チームサプリメント　三機工業株式会社様よりご協賛	-
スクイズボトル、ボトルケース　フレア合同会社様からのご協賛	-
会議室	90,000
炊飯器　現地の日本人ママの会からご拝借	-
テーピング・薬品等	52,547
練習グラウンド代　（21日）保険料込	30,000
日本国旗	2,376
郵送代	51,021
雑役務費	250,691
（プロカメラマン、中嶋コーチ、徳永コーチ、稲田コーチ）	
雑費　（両替手数料、遠征バッグの鍵代）	10,075
売上原価　※推定額	481,250
振込手数料　※推定額	10,714
小計	**7,783,255**

支出合計 **7,783,255**

残高 **-**

※　1AUDは84.487～84.982円で計上してあります。（DCカードの換算レート）

※　助成金は仮決定につき、報告後、金額が変更する場合があります。

※　未だ未払額が残っていますので、後日に多少の変額が発生する可能性があります

World Deaf Rugby 7’s に参戦して

監督　落合 孝幸

第 1 回 Word Deaf Rugby 7’s 日本代表（以下、Quiet Japan）のゴールは、優勝を飾ることでした。そのゴール達成の為に掲げた下記の 3 点に注力し、厳しい練習、合宿を乗り越えてきたという誇りと自信を胸に戦いました。

（1）フィットネス強化

（2）アタックシステム（以下、AT システム）の確立

（3）ディフェンスシステム（以下、DF システム）の確立

1.国内強化合宿の実施報告

下記に国内での実施した強化合宿の期間、場所、主なテーマ他を示します。

表 1.1 国内強化合宿の実施内容

実施日	実施場所、主な施設	主なテーマ他
2017 年 1 月	千葉県長生郡／リソル生命の森	フィットネス測定実施（以降、毎回合宿にて測定）、ハンドリングの向上
4 月	埼玉県熊谷市	ハンドリングの向上
5 月	兵庫県加古川市、姫路市	ビジョントレーニング、姫路セブンズ大会出場
6 月	埼玉県越谷市	越谷セブンズ出場、アタックのスキル向上
9 月	静岡県清水区／東海大学翔洋高校	練習試合、DF システムの確立
11 月	大阪府堺市	練習試合、アタックのスキル向上
12 月	岐阜県瑞穂市／朝日大学	練習試合、アタックのスキル向上
2018 年 1 月	大阪府寝屋川市	練習試合、DF システムの確立、代表選手発表（一部決定）
2 月	千葉県長生郡／リソル生命の森	練習試合、DF システム、AT システムの確立、代表選手発表（最終）
3 月	大阪府寝屋川市	練習試合、DF システム、AT システムの確立
3 月	東京都狛江市	ステップの習得、練習試合、最終確認

2. Quiet Japan の強化と成長

海外のチームと対等に戦うために国内の強化合宿において、下記の 3 つのポイントを重点に行なった。

（1）フィットネスの強化

日本が世界と戦うためにフィジカル面ではかなり厳しいことはどのスポーツにおいても共通している。またフィットネスで勝負している点も共通している。そして聴覚障がい者は目から情報を得る為には、どんな状況においても体がしっかりと動けている、意識がある状態でなければならない。フィットネス不足の場合、目から得られる情報が欠如する為、怪我につながる恐れがある。その為、フィットネス向上は避けて通れない。毎回の合宿の初日にフィットネス測定※1 を行ない、選手自身がフィットネス向上の必要性を持たせた。選手は全国に散らばっている為、少しでも共有する時間を設けることを考え、LINE グループを立上げ、選手達に 2 週間に 1 回、2 週間分のトレーニングの報告を LINE グループに投稿してもらった。トレーニング内容をチェックし、選手自ら継続してトレーニングに励んでもらうと同時に、選手同士で刺激し合う効果が見られ、お互いに強化する自覚が芽生えた。

また Quiet Japan は選手全体的に実戦の経験が乏しい為、毎回の合宿に試合を盛り込みました。2017 年 9 月の静岡合宿以降、合宿の最終日の午後には WDR7's を想定して、練習試合を 3 試合組むことで、実戦の経験を積み重ね、フィットネス向上に繋げ、次の試合までの体のケア、補食、アップのルーティンを確立させました。

※1　フィットネス測定方法 : 20m シャトルランを検討していましたが、音楽に合わせて測定を行う為、聴覚障がい者にとっては測定不可能である。代替えとしてスタートラインから 20m 地点で折り返し、スタートラインに帰り、またスタートラインから 40m 地点で折り返し、同様に 60m 地点で折り返し、これを 3 セット続けて、シャトルランを行う。根拠となる基準タイムはありませんですが、3 セット 3 分以内が目安になります。

（2）AT システムの確立

海外のチームだけでなく、健聴者チームも含めて一般的にグラウンド幅いっぱいを使い、7 人の選手をフルに動かしてアタックを行なっている。しかし、Quiet Japan の場合、自ら仕掛け、相手のディフェンスを打開する力が不足している。またボールキャリアが孤立されるとターンオーバーされ、失点に繋げられることが多かった。失点のリスクを少しでも下げる為に図 2.1 に示すように、グラウンドを縦に半分にアタックエリアを二分割に限定し、片方のエリアにて 3 人でアタックを仕掛け、3 人でボールのリサイクルを行なう、中央の 1 人（図 2.1 では④のプレーヤー）にボールを預けて、もう一方のユニットで仕掛けるというシステムを確立し、2018 年 2 月から落し込んだ。その結果、孤立によるターンオーバーからの失点が減った。

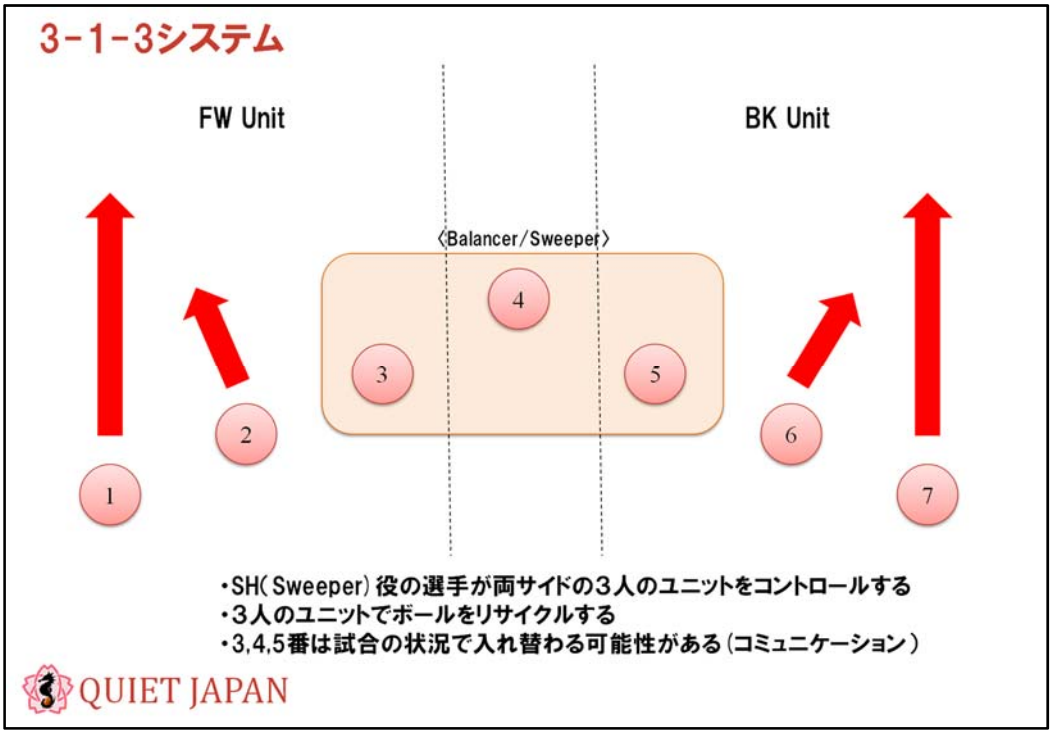

図 2.1　AT システム

(3) DF システムの確立

チームによっては 7 人を 1 列の面にして対応する、または相手のキックに備えて、1 人をスイーパーの役割として後方に配置し、残りの 6 人でグラウンド横幅いっぱい、面にして対応するなど、様々なシステムがあります。またディフェンスの立ち位置は基本的にタッチラインと平行に対面の相手の内側の肩と自分の外側の肩を合わせるように立つことが一般的です。しかし、海外チームの特有のフィジカルの差を 1 対 1 で止めることは選手にとって肉体的、精神的に非常に負担が大きい。その為、選手個人の負担を軽減させるよう、AT システムと同様、図 3.1 に示すように、内側、外側から 1 人の相手を対応するシステムを確立し、2017 年 9 月静岡合宿で落とし込んだ。

しかし、選手達がこれまで経験したこととは全く異なる動きだった為、　合宿で行なわれた練習試合では混乱を招き、リズムが悪くなった。外側からのディフェンスを行なうことにより、自分の対面が外にずれた時の対応が遅れるなどの不安から、選手達が慣れている手法である相手の内側の肩と自分の外側の肩を合わせる方法を基に見直した。その結果、下記の図 3.2 のように相手の立ち位置に合わせることではなく、選手が横に腕を広げた長さを最低限の守備範囲とし、面としては短いが、その分、味方との間隔が狭くなっている為、気持ち的に余裕を持ってディフェンスを行なうことができると考えた。しかし、ディフェンスの面が短いため、相手のボールの動きに合わせて、瞬時に面ごとに移動しなければならないという運動量の多さによる不

安もあったが、選手から落ち着いてプレーし、ディフェンスが安定したとの声の方が大きかった。2018 年 1 月から DF システムを落とし込んだ所、練習試合で早速効果が出て、失点が非常に少なくなった。

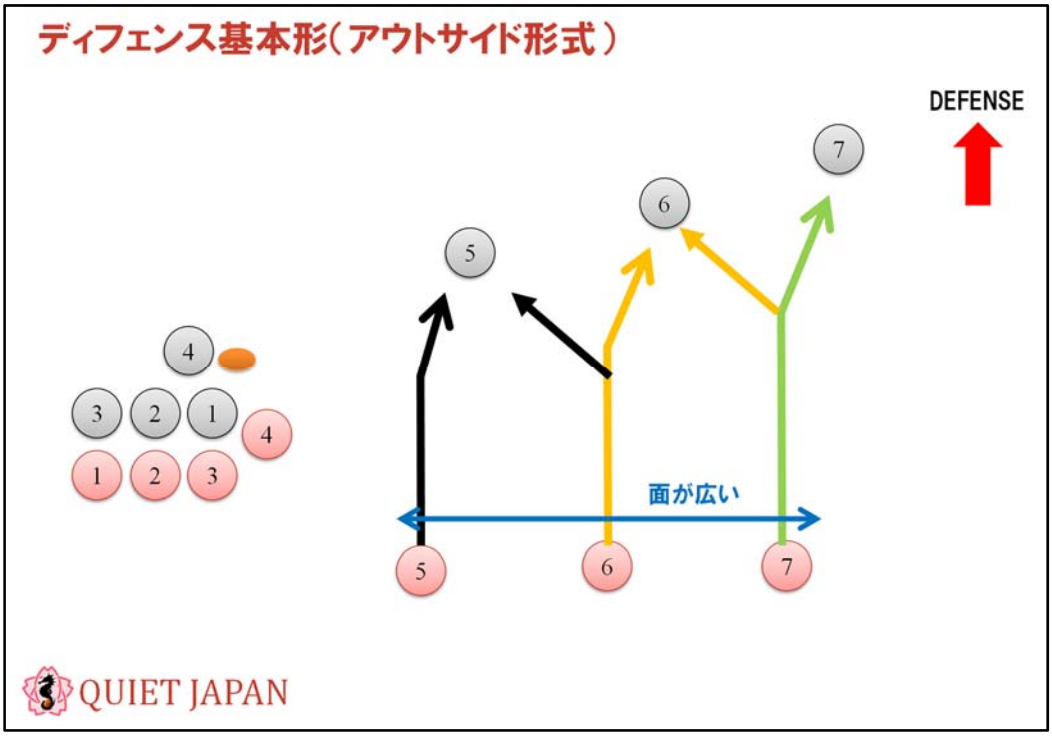

図 3.1　DF システム（アウトサイド形式）

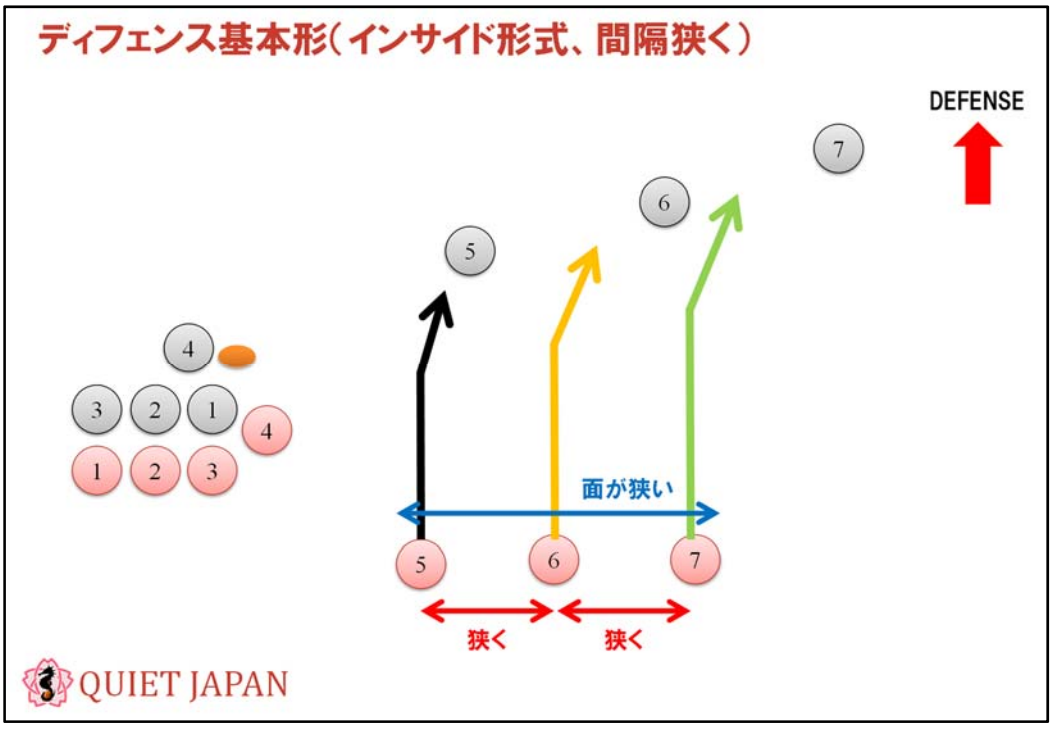

図 3.2　DF システム（インサイド形式、間隔を狭く）

3.大会を通して

初戦は今大会の優勝チームとなった Wales。国内強化合宿で毎回「海外チームは日本で通用していたプレーは通じない。体格の大きさはもちろん、腕の長さ、脚の一歩の長さなどみんなの想像以上に大きい。」と何度も伝えてきた。初戦に日本で通用していたプレーが通じなかったことを体感してもらえたことが、残りの試合に対するモチベーションが大きく変わったことに過言ではありません。選手たちは健聴者ラグビーでも強豪である Wales、England、Fiji、Australia などに果敢に戦ってくれましたが、結果は 4 位とメダル獲得させてあげれなかったことは監督の力不足でした。しかし世界 4 位となりましたが、選手たちは胸を張ってこれからも挑戦し続けてくれたらと思います。これまで指導歴も監督歴もない私についてきてくれたこと、本当にみんなに感謝しています。ありがとうございました。

4.お礼

今回の遠征は、三機工業株式会社をはじめとする遠征に賛同してくださった本当に多くの方々の多大なご支援をいただいたことで実現できました。深く感謝申し上げます。言葉では表わせないくらい、貴重な体験ができたことを嬉しく思います。そして、選手全員にとって世界の広さを感じた遠征でもありました。遠征を通して、自分の意志、熱意をしっかりと周囲の方々に示し、ご理解していただけなければ遠征を実現しなかったこと感じ取ってくれたと思います。一生の財産となる充実したものとなり、心から感謝しています。今後ともデフラグビーをよろしくお願いいたします。

活動報告

アスレティックトレーナー
平田 昂大

１．活動目標

日本選手団の最高のパフォーマンス発揮および遠征時の傷害・疾病予防を目的に活動しました（表 1）.

表 1. 遠征中の傷害および疾病の発生・対応件数.

	内容	件数	対応内容
整形外科的	頭部打撲	2	脳震盪スクリーニングテスト実施，会場医師受診
	足関節捻挫	1	応急処置，テーピング
	ハムストリング肉離れ疑い	1	応急処置，テーピング
	ハムストリング筋痙攣	1	アイシング，ストレッチ，水分補給
	大腿四頭筋筋挫傷疑い	1	応急処置，テーピング
内科的	熱中症疑い	3	アイシング，水分補給
	下痢	5	服薬
	咽頭痛	3	服薬，うがい薬
その他	臀部擦過傷	5	消毒，保護
合計		22	

*延べ件数

２．活動内容

・テーピング：状態に応じて適宜テーピングを実施しました（表 2）.

表 2. テーピングの実施内容と件数.

テーピング	件数
足関節捻挫	18
膝関節 靭帯サポート	6
ハムストリングサポート	14
下腿三頭筋サポート	4
大腿部打撲	2
ハムストリング肉離れ	2
大腿筋膜張筋サポート	2
手指	9
合計	57

*延べ件数

・コンディション管理：体重測定を毎日朝・晩で実施し，脱水等の予防，管理を行いました．また，風邪症状を訴えた者に対して適宜体温測定を実施しました．飛行機での移動中の乾燥対策のためのマスク着用，ホテル帰宅時のうがいを促し，風邪の予防に努めました．

・応急処置，救急対応：遠征中に発生した傷害（頭部打撲，ハムストリング肉離れ）について，機能評価を実施後，適宜現地の会場ドクターを受診しました．

・アスレティックリハビリテーション：遠征中に発生した傷害（頭部打撲，ハムストリング肉離れ）について，競技復帰を目的に頭頸部の機能評価，ハムストリングスのリコンディショニングを実施しました．

・試合前後のウォーミングアップやクーリングダウン，試合間のリカバリーについてプランニングして実施しました．

3. 終わりに

今回このような貴重な機会を頂戴したことを関係各位，ならびに多大なご支援を頂いた全ての方々に厚く御礼申し上げます．

手話通訳スタッフ
西尾　香月

2011年にオーストラリアチームに帯同させていただいたご縁で、このたび日本代表クワイエットジャパンの遠征に手話通訳スタッフとして参加させていただきました。
遠征前の国内での日本代表の合宿に仕事の都合で参加できず、遠征出発の当日に選手、スタッフの皆さんとお会いすることになりました。不安な気持ちがありましたが、皆さん、快く受け入れてくださり安心して同行させていただくことができました。ありがとうございます。
遠征中は、限られた少人数のスタッフのため手話通訳以外にも英語通訳や食事の準備、試合中は写真撮影もするなど慣れない作業でしたが、皆さんのおかげで楽しみながらやり切ることができました。
2011年に帯同したオーストラリアチームの多くのメンバーと再会することもでき、大変感慨深く嬉しかったです。
セブンスのラグビーの試合を見るのが初めてで、前半、後半とあっという間に終わってしまうので、最初は驚きました。写真の撮影に必死でなかなか試合に集中して見ることができなかったのですが、後半の試合ではしっかり見る機会がありました。日本代表メンバーみんなの必死に大きな身体の相手に向かっていく姿に感動しました。試合初日前日のユニフォームを渡すときにメンバー一人ひとりの言葉通り、死ぬ気で立ち向かっていた姿が忘れられません。ラグビーというスポーツの面白さ、素晴らしさを初めて感じ、初めて感動した試合を見せてくれた日本代表の皆さんには本当に感謝しかありません。
私は合宿に参加できなかったので、日本代表の皆さんと一緒に過ごした時間は9日間だけと短い間でしたが、World Deaf Rugby 7’s日本代表の選手の皆さん、落合監督、日野さん、平田トレーナー、松井さん、柴谷さん、カメラマンの長田さん、現地でお世話になった多くの皆さんとの絆を感じています。
大切な仲間ができた遠征になりました。
今後も、日本のデフラグビーの発展を心からお祈りしています。また心から応援しています。
また、機会がありましたら、是非一緒に活動させていただきたいです。
ありがとうございました。

～World Deaf Rugby 7’s Australia 2018 を経て～

主将
＃１０　大塚　貴之

2018 年 4 月 22 日より行われた World Deaf Rugby 7’s（以下、WDR7）は世界デフラグビー界にとってさらなる発展につながる大きな第一歩であり、各国の関係者に大いなる夢と希望をもたらしてくれました。

これまでの合宿の実施や WDR7 への遠征費、日本代表のジャージ作成などは当初は全て自己負担で進める予定でしたが、多くの支援者によりお陰様で負担をより軽減することが出来、その上に大変ありがたい応援を頂きました。

WDR7 では、多くの方に支えられていること、応援されていることを胸に秘め、日本代表としての誇り・覚悟を持って、戦いました。結果こそメダル獲得には至りませんでしたが、世界 4 位という自分にとっては恥しない結果であり、今後にむけての新たな目標が出来ました。

WDR7 に参戦するにあたり、多くの方にデフラグビーというものを知ってもらい、大会期間中では日本代表の奮闘ぶりを SNS に通して感動をお届けしました。少しでもデフラグビーの魅力、可能性を伝えることが出来たのではないかと思います。今後とも活動を継続していって健常者と障がい者が共に活きやすい社会作りを微力ながらも貢献していきます。

最後に改めて応援して下さった皆様には感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

World Deaf Rugby 7’s 2018 報告書

副将
＃９　宮田 大

2018 年 4 月 23.24.26 日オーストラリアのシドニーにて World Deaf Rugby 7’s が開かれ、選手として参戦いたしましたので、下記の通りご報告いたします。

記

1. 目 標

World Deaf Rugby 7’s に参戦することにあたって個人の目標は、好成績を残して、聴覚障がいを持つ子ども達にラグビーの魅力を感じてもらい、ゆくゆくはデフラグビー人口が増えるきっかけを作ること。またそれだけではなく、これまで支えてくれた家族、高校・大学のチームメイト・監督そしてデフラグビーに WorldDeafRugby 7’s を通じて恩を返したいという想いが強かった。そのために食事制限、フィットネス・筋力の向上を努めた。

2. World Deaf Rugby 7’s

World Deaf Rugby 7’s 予選の初戦相手はウェールズ。フィジカルはウェールズが上だが、フィットネス・走力で勝負に臨んだところ、フィジカルの面で負けた場面が多くあり、自分の武器であるスピードを活かすことが出来なかった。ウェールズとの試合は負けたが、得るものは多くあった。自分の実力、クワイエット・ジャパンの組織力はどれだけあるのか再確認することが出来た。クワイエット・ジャパンの選手も怯むことなく、残りの予選試合を尽力し、その結果、決勝トーナメントのシード権を獲得することが出来た。決勝トーナメントの結果、クワイエット・ジャパンは 4 位で World Deaf Rugby 7’s の幕を下ろした。

3. 所感

World Deaf Rugby 7’s を通じてコンディションの管理、フィットネス、正確なパスといった自分自身の課題が明確に出てきたので、次回の World Deaf Rugby 7’s に備えて、１から鍛え直していきたい。

また今回の遠征は多くの方々からのご支援・ご声援のおかげで成り立ちました。たくさんのご支援、ご声援、ご鞭撻ありがとうございました。

以上

WORLDDEAF RUGBY7’sAUSTRALIA

＃１　岸野　楓

初めての世界大会が終わってしまいました。
小さい時からデフラグビー日本代表としてプレーすることは一つの目標でした。
これまで私たちは多くの方々に支えられ、国内合宿を数多く行い、チームの結束を高めて世界大会に参加することが出来ました。
こうした色んな思いが詰まったデフラグビー日本代表のジャージを着ることの重み、誇りは私たちに大きな勇気、覚悟を持たせてくれました。
予選リーグでは６試合があり、その中でオーストラリア戦でロスタイムに逆転トライをして劇的逆転勝利を収めたこと、ウェールズ戦で接戦をものにして勝利したことが印象に残っています。
予選リーグは３勝３敗でシードを獲得し、決勝トーナメントに進みました。
初戦はウェールズ戦で、前半のリードを取り返すことが出来ず、負けました。しかし、相手チームのルール違反があり、再試合が行われました。私たちはもう一度誇りを持って戦い、リードを守って勝利することができました。
次戦のイングランド戦、３位決定戦のフィジー戦は残念ながら負けてしまいました。
決勝トーナメントの結果は４位となりました。
この大会を通して、日本代表チームは世界一になるところまで来ることが出来ましたが、４位となったのはまだ私たちに成長できる余地があることです。2019 年ラグビーW杯に伴ってデフの世界大会が行われるようデフラグビーの普及活動を積極的に行い、また次世代のデフラグビー選手が国内合宿などに参加しやすい環境づくりを進めていきたいと思っています。
メダルを日本に持って帰ることは出来ませんでしたが、この世界大会を通して得た経験はかけがえのないものとなりました。
この経験を大切にし、次は所属しているラグビー部での目標にチャレンジしていきます。
最後に、私たちに大きなサポートをしていただいた多くの方々に感謝を申し上げます。

WORLD Deaf rugby 7's Australia 2018

＃２　土田 将弥

4 月 23 日から 26 日にデフラグビーの世界大会がオーストラリアで開催され、2002 年の第 1 回世界大会（NZ）から 16 年ぶりの世界大会でした。
これまで 16 年間、遠征の話は何度かあったようですが、資金面での調達や運営状況で厳しく突然中止になる事もあり遠征できずにいてました。日野理事長をはじめ色々な方々が普及活動や T シャツ販売、メディアを通してのデフラグビーを知ってもらう事の反響が大きくなり、三機工業様からのスポンサーや色々な会社からの協賛、個人の協賛のお陰でラグビー協会から日本代表として認められ念願の遠征が叶いました。
私は 1 年半前に大学の監督からデフラグビーを紹介してもらい初めてデフラグビーを知りました！今までは健聴者とプレーしてましたが、デフは聞こえない人や手話で話す事ばかりで最初はどうやって会話しようか悩んでました。でも、みんなが私に合わせて喋ってくれたり、手話を教えてもらってデフラグビーと出会えて良かったと思いました！
去年の 12 月に落合監督から私を日本代表に選んでもらって、嬉しい気持ちを持ち、そして落合監督に恩返しがしたく優勝して胴上げをしたいと強く思いました！
初めての世界大会では味わった事も無いぐらい凄く緊張もしました。試合に勝っては嬉し泣きをし、負けては悔し泣きもしました。相手チームに何か一つインパクトを与えたいと思い、私が出来ることはトライを取ることです。おかげでチームの中では多くトライを取る事が出来ました。しかし、準決勝で後半に怪我をしてしまい、チームのみんな、落合監督に申し訳ないという気持ちで苦しかったです。それでもみんなや落合監督は心配してくれて、平田トレーナーの素早いケアで試合に戻れる事が出来ました。本当に感謝しても仕切れないぐらいでした。
試合の結果は 4 位で凄く悔しかったですが、初めて世界の相手の強さなどが知れた事が凄くいい経験ができました！
次の世界大会で私を代表に選んで頂けたら必ずリベンジをし、優勝を目指したいと思います！それまではデフの合宿に積極的に参加し、クラブチームで体を作り、一回り二回り大きくなるようにトレーニングを続けます。

感謝

＃３　日野 敦博

三機工業株式会社をはじめ、企業様、個人様・・多くの方々の心温まるご厚意に深く感謝しております。
私は、選手だけでなく理事長として、遠征での総務として兼務しながら、当初は、助成金と多くの自己負担で遠征計画を進めてきました。日本ではラグビーという競技はまだマイナーであり、デフラグビーとは、なおさらという厳しい環境です。
我らクワイエット・ジャパンは、このＷＤＲ７‘ｓとは日本のデフラグビーの未来のためにと、さらさる発展を賭けて色々と動いて下さいました。
個々の小さな行動の積み重ねで、少しずつ認知度を上げ、応援して下さる方が増え、最終的には予想をはるかに超えた、国内に限らず、海外からも心温まるご厚意を頂きまして、何と御礼を申し上げればよいか、言葉もございません。
結局、力及ばず優勝を皆さまに報告できずに申し訳ございませんが、我らの心に何かを刻めたのではないかと思っております。
また、初めての大規模な世界大会（2002 年では 4 カ国のみでした）であり、諸国の実力そして、外国人選手との対戦で色々と学んだ事が多くあり、そこから課題が明確したことと、今回のクワイエット・ジャパンの選手方々の悔しい気持ちにより、
次回の World Deaf Rugby 7’s　でのクワイエット・ジャパンの成長が楽しみです。
今回の遠征で、当日に急遽、計画変更したり、中止になったり・・色々とトラブルがありましたが、その度々に臨機応変で対応してくださったメンバー方々に感謝と
共に、総務として自身の成長できたかと良き経験でもありました。
最後に改めて、御礼を申し上げます。ありがとうございました。

「ワールドデフセブンズ大会に参加して」

＃４　鮫島　功生

自分自身のパフォーマンスは大会１日目の試合開始早々負傷してしまい、チームに迷惑を掛けてしまいました。責任持ってプレーは出来ないと自分自身で判断して残りの予選は試合に出場しませんでした。気持ちを切り替えて仲間を信じてしっかりとリカバリーし、最終日には出来るだけいいコンディションで試合が出来る様にしました。予選ではチームを助ける事が出来なかったので最終日には万全ではないですが負けたら終わりのトーナメントで自分がチームを助ける事を強く意識して試合に挑みました。しかし、結果は目標としていた優勝ではなく、4 位という残念な結果で終わりました。支援して頂いた方々の期待に応える事が出来ませんでした。今回の世界大会はただ参加しただけではなく、これからの自分の人生を歩んでいく上での重要な大会になりました。今回の経験を色んな所で還元していけたらと思います。支援して頂いた方々、本当にありがとうございました。

＃５　村上 智大

４月２３日から２６日にデフラグビーの世界大会がオーストラリアで開催され、
2002 年の第一回世界大会（NZ）から１６年ぶりの世界大会でした。
これまでこの１６年間、遠征の話は何度かあったようですが、資金面での調達や運営状況で厳しく突然の中止になることもあり遠征出来ずにいていました。日野理事長をはじめ 色々な方々が普及活動やＴ シャツ販売、メディアを通してのデフラグビーを知ってもらうことの反響が大きくなり、三機工業からのスポンサーや色々な会社からの協賛、個人の協賛のお陰でラグビー協会から日本代表として認められ念願の遠征が叶いました。
私はラグビーを始めて半年の経験です。なぜ経験の浅い私が日本代表なのか？
世界を舐めてるのか？と周りからの反感を持たれていたことは少なからずともあったと思います。でも、私は本気でした。世界で戦いたい。世界がどんなもので世界がどんな場所なのかこの目でこの体で体感したかった。そして何よりも私がラグビーを始めたばかりの頃、大塚から「君と一緒にプレー出来ることを楽しみにしてるよ」と連絡をくれた時、私は早く大塚と肩を並べて一緒に走りたいという強い気持ちが世界で戦いたいという気持ちに繋がったのではと今、思います。今、思えば私がラグビーを始めたきっかけ、ラグビーの楽しさを知ったのは大塚から誘われたというのもあり、大塚の人間性に惹かれたのがきっかけでした。
世界大会の三か月前に代表の内定を頂いた時、正式に日本代表として監督からチームから認められる為にも遠征まで残された３か月間が自分にとっての自分との闘いの毎日でした。仕事が夜９時、１０時に終わることが多く、そのままジムに行き 疲れている自分を 追い込みトレーニングして晩御飯食べては帰宅する、睡眠時間が平均３時間の毎日でした。サボりたい日なんてありませんでした。「世界に行きたい」その気持ちだけで今までやってきました。合宿以外でも色々なメンバーとコミュニケーションを深めたいと思い、一緒に トレーニングをしたりご飯など行ってました。そして正式に日本代表として選ばれ世界大会で少しでも力になれるよう戦ってきました。結果は３位決定戦までいくものの惜しくも敗れ４位という結果で終わりました。最後の試合が終った時、１人、１人の今までの積み 重ねてきたもの、日の丸を背負う責任の重さを常に忘れる事なく全力で戦ってきた勇姿、最後の最後まで応援してくれた皆様の顔、なによりこのメンバーで戦うことが終ると思うと、涙が溢れました。もっと強くなりたいと悔しさも混じっていました。色々な刺激を受けて気持ちも体も一回りおおきくなれたような気もしたこの一週間は本当に濃い貴重な時間でした。この貴重な経験が出来たのも僕を連れて行ってくださった落合監督に感謝でいっぱいです。この世界大会を通して今後、日本でもっとラグビーに関わる時間を少しでも増やし４年後、また世界で戦える日を強く願いながらラグビーの練習に励むことをここに決意表明します。

World deaf rugby 7’s Australia 2018 報告

＃６　川上　能壽

今回のデフラグビー世界大会に、自分が日本代表として出場するなんて思いもしませんでした。私が選出された背景には2002年の出場経験者であることが大きいと思います。2002年の世界大会の経験を若い選手に還元すること日本代表という自覚、日の丸を背負う重み…私は試合に出られなくてもいいので、若い選手にどんどん経験を積ませることが役割であると自分自身で決めていた。ただ、2002年以来１６年も経過し、世界のレベルも大きく変わっているという意味では、2002年出場した際と同じ心境でした。

試合に出たのがオーストラリア戦でした。負傷者が続出したため急遽出ることになりました。16年ぶりに世界の舞台に立てて感無量でした。フィジーとは対戦したことがなかったので、仲間の一員として勝利したい気持ちで試合に臨めたことは嬉しく思いました。敗れましたがいい経験になりました。

いろいろなトラブルがあり、本当に世界大会をやるのかという不安もあったが、無事終えることができてよかった。結果は4位でメダルを持ちかえることができず残念でしたが、それ以上に大きな経験、他に代え難い人生の財産になりました。これもご支援してくださった連盟、協賛してくださった三機工業株式会社様に厚くお礼申し上げます。

今後はできるだけ長く若い選手と一緒にラグビーをしたり、トレーニングをしたいと思います。選手を増やし、デフラグビー界を支えていきたいと思います。

＃７　蛇目 尚人

今回世界大会に参加して、世界中に自分と良く似た障がいを持った人と関わりを持てた事が良かったと感じました。

自分の愛しているラグビーを他国の人も同じように愛していて、もちろん音でのコミュニケーションはとりづらかったり言葉は通じなくとも表情であったり、手話含むジェスチャーとかで意志の疎通をはかることが出来た事がとても幸せな時間でした。

そして、日本を代表して世界大会に臨むという事も僕の中では大きな事でした。今までは自分の責任においてただ自分が楽しくラグビーをしていれば満足だったのが、やはり国を代表するという事の意味をすごく考えました。今回の遠征は色々な方々がサポートしてくださり、協賛金であったり、応援の言葉であったりと本当にありがたく、これは本気で全身全霊自分の全てをここに賭けないといけない、その責任も課されているんだと感じました。なので今までで一番身体をいじめましたし、心も鍛えてオーストラリアに行きました。この経験はこれからの人生において苦しい時、あの時これだけ頑張れたのだからもっと頑張れるという支えになってくれると思います。そういった意味で本当に貴重な経験をさせていただいたと思っています。

＃８　福井 拓大

初めての海外遠征、初めてのオーストラリアということもあり、自分の気持ちは楽しみよりも怖さ、不安が勝っていた。成田空港で日本代表のメンバーに会うと少しやったらなあかんという気持ちが芽生えてきた。そんな気持ちでオーストラリアにつき、開会式が始まった。試合前夜に日本代表のユニホームを落合監督からいただくとき、軽いはずのユニホームがすごく重たかった。初めて日本代表というプレッシャーを遅くながらも気づいた。しかし、不安と恐怖はそこで消えてっていた。試合が始まると自分の力が、武器がどこまで通じるのか試したくなり挑戦した。抜けたとおもっても伸びてくる手、長い足。自分の考えが甘かった。そこで外人と戦う恐怖がでてきたが反面楽しくなってきている自分もいた。オーストラリア戦はとにかく走ろうというきもちで挑めた。だから勝てたときはすごく嬉しかった。もっと試合がしたい。勝ちたいと思っていた。悔しかった試合は予選のときのフィジー戦と三位決定戦のフィジー戦。勝てるはずの相手だった。自分も含め落ち着きがなく、個人プレーに走ってしまった。すごく悔しかった。涙がこぼれてしまった。しかし、悔いはなかった。自分はやりきったと思うことができた。悔しい思いもしたし、嬉しい思いもできた。これからにつながるいい経験をさせてくれた。

今回の遠征は見えない応援してくれたたくさんの人、理事長、監督、マネージャー、トレーナー、通訳者、キャプテン、チームのみなさんのおかげで成し遂げたものだと思います。全ての人に伝えきれないほどの感謝のきもちいっぱいです。本当にありがとうございました。

＃１１　倉津 圭太

今回の世界大会で、4 位という好成績を収めることができたのは本当に良い経験になりました。

しかし、今まで合宿を重ね、多くの応援や支援してくださった方々に「優勝」という報告が出来なかったことは、やはり悔しいです。

また、私自身デフラグビーに所属して初めての世界大会で、デフラグビー日本代表に選ばれたことはとても誇りに思います。今回ほど、合宿やプライベートでトレーニングに集中できたのも初めてかもしれません。この経験は自分に自信を持つキッカケになり、これからもデフラグビーを続けたいという気持ちが強まりました。

今後の目標としては現状に満足するのでなく、更なる上を目指すよう、次の世界大会年に向けてトレーニングしていきたいです。そのためには、自分の苦手なところ（スタミナ強化）を徹底的に鍛え、チームの中心となる人物像を作り上げ、デフラグビーを盛り上げていきたいです。

World Deaf Rugby 7’sに参加して

＃１２　宮田　翔実

World Deaf Rugby 7’sの期間中はチームのためにどんなことができるのかと常に考え試合に出ている選手達のサポートを行いました。しかし、個人的には物足りない感じがしました。なぜなら自分で納得いったトレーニングをこなしていなかったからです。次回の世界大会まで結果のみにこだわってトレーニングに励むと心の中に誓いました。そうすることで今までサポートして頂いた方々への最大の恩返しになると思います。また、外国の選手達との交流を通して世界のデフラグビーの情勢を知ることができ、日本同様、世間的にラグビーは聴覚障害児にとって危険なスポーツという認識があることからデフラグビーの人口が少ないんだなと実感しました。それでも皆ラグビーを愛しているということがものすごく伝わりました。実際、50歳だと思われる選手が若い選手に混じって試合のプレーをしていてびっくりしました。今回のWorld Deaf Rugby 7’sを通してよりラグビーの魅力を知り、もっとラグビーのことを知りたくなり、上手くなりたいと強く思いました。

オーストラリア遠征

アシスタントスタッフ

松井　理紗

オーストラリア遠征に行く前の意気込みは、大会のある日は選手の為に栄養のあるご飯を作ることでした。実際に遠征に来てよかった点は、２点あります。1つ目は、家からデジタルクッキングスケールとを持ってきたことです。管理栄養士さんが買っていただいたおにぎり型のケースも良かったのですが作る時間を考えた結果、デジタルクッキングスケールの方が効率的におにぎりを作ることが出来ると思いついたからです。手話通訳士や柴谷さんからも好評いただき、おにぎり作りがスムーズにいきました。2つ目は、トレーナーさんのお手伝いをするつもりではなかったのですが、試合会場で私が貴重品管理を担当していたこともあり、試合が終わった後選手方々がこちらに戻ってくる間に出来る事は何かと考えた結果、アイシングを準備しておくことで選手の人数の分を作っておき、平田トレーナーさんが来た時にすぐ渡せるようにスタンバイした事で選手の皆さんはすぐアイシングすることができ、次の試合に臨めるように支えた。

上記に対し反省すべき点は、果物の種類を揃わずに、バナナだけ買わなかったことです。安全でおいしい果物はどこにあるか事前にリサーチすべきだったと思った。悪かった点もあったが、今回の遠征ではアシスタントスタッフとして役割を果たすことが出来た。今後、また似たような遠征があった場合、今回よりグレードアップした内容にして選手方々が満足できるようサポートしていきたいと思っています。　　以上

メディア掲載リスト

■NHK　「ろうを生きる難聴を生きる」　4 月 14 日（土）放送
デフラグビー日本代表の挑戦　前編
http://www.nhk.or.jp/heart-net/program/rounan/528/

■アスレシピ 4 月 18 日（水）
・手話でコミュニケーション、聴覚障がい者「デフラグビー」の栄養サポート
https://athleterecipe.com/column/15/articles/201804160000441

■アスレシピ 4 月 19 日（木）
・デフラグビーセブンズ日本代表、おにぎりとみそ汁で世界の頂点狙う
https://athleterecipe.com/column/1/articles/201804160000450

■NHK　「ろうを生きる難聴を生きる」　4 月 21 日（土）放送
デフラグビー日本代表の挑戦　後編
http://www.nhk.or.jp/heart-net/program/rounan/539/

■日本テレビ 「newsevery.」 4 月 24 日（火）放送
記者発 密着！デフラグビー・世界大会へ
↓　こちらより映像をご覧いただけます。現在は見られなくなっている模様です（2018.5.30）
www.news24.jp/sp/articles/2018/04/24/07391318.html

■ラグビーリパブリック 4 月 24 日（火）
・デフラグビー『クワイエット・ジャパン』、オーストラリアに勝った！
http://rugby-rp.com/sp/sp_news.asp?idx=113124&code_s=

■ラグビーリパブリック 4 月 26 日（木）
・デフラグビー・セブンズ 日本代表は予選 3 勝！ ワールドラグビーTV も注目
http://rugby-rp.com/sp/sp_news.asp?idx=113142&page=&code_s=1000

■ラグビーリパブリック 5 月 2 日（水）
・【World Deaf Rugby 7’s】クワイエット・ジャパン 3 位に届かずも立派に戦う。
http://rugby-rp.com/sp/sp_news.asp?idx=113164&code_s=1000

今後の計画

－3 点を主たる計画として取り組みます－

■普及プロジェクト「ゼロイチプロジェクト」

8 月のデフスポ（大阪)、1 月のなかまの集い（千葉)、2 月のわくわくデフスポーツ体験（東京）での 3 つの普及活動を恒例化し、他の聾学校やフリースクール等に企画を持ち出し、聞こえない、聞こえにくい子供たちとの交流する機会を増やす。

■シニア活性プロジェクト（生涯スポーツ）

４０歳以上のメンバーを集い、デフシニアチームを作り、シニアチームと対戦する。年に 1 回か 2 回集まることからスタートし、最終的にはどこかシニアチームと定期的に対戦できるようにする。

■国際プロジェクト

今後の国際試合、大会を取り組むよう、交渉等する。
2018 年 *World Deaf Rugby 7's Australia 2018* の遠征成功したことで、
2021 年に日本で第２回ＷＤＲ７’ｓ（*World Deaf Rugby 7's Japan 2021*）開催する方向で交渉を取り組む。

活動を継続するためには、日本がどこかの国を「招待」するか、海外遠征を実施し、対戦することが１番確実なので、
2019 年に香港へ国際交流として遠征、
2020 年にフィジー等へ海外強化合宿を計画し、第２回ＷＤＲ７’ｓで入賞を目指す。

国内に限らず、海外にも視野を入れての活動範囲を広げ、デフラグビーファミリーを拡大したく、今後ともなにとぞ変わらぬご愛顧のほど、よろしくお願いいたします。

特定非営利活動法人
日本聴覚障がい者ラグビーフットボール連盟
理事長　日野 敦博
理事一同